

資料 11

R Aの病期別治療計画 一手指・手関節一

病期	初期	早期	進行期	晩期
非可逆性変化	stage 1	stage 2	stage 3	stage 4
活動性	(+)	(+) ~ (++)	(++)	(±) ~ (-)
全身状態	(-) ~ (±)	(+)	(+) ~ (++)	(+) ~ (++)
治療目的	① 関節面を解離し「遊び」の回復。 関節面に滑液が回り込める余裕を回復させる。 ② 筋力と関節可動域の維持・改善 ③ 腱断裂の予防			
治療法	① 前腕筋（特に屈筋）の緊張部に置鍼 ② 関節の圧痛部に浅く置鍼 ③ 骨間筋部に置鍼 ④ 徒手による靭帯・筋のストレッチ ⑤ 自動運動、他動運動			

R Aの病期別治療計画 一肘関節一

病期	初期	早期	進行期	晩期
非可逆性変化	stage 1	stage 2	stage 3	stage 4
活動性	(+)	(+) ~ (++)	(++)	(±) ~ (-)
全身状態	(-) ~ (±)	(+)	(+) ~ (++)	(+) ~ (++)
目的	1.筋の過緊張の軽減除去 2.短縮筋のストレッチ 3.筋力と関節可動域の保持改善			
治療法	①上腕二頭筋・円回内筋・腕橈骨筋の緊張・圧痛部に置鍼 ②徒手矯正 ③自動介助運動（徒手・重り） ④ストレッチ			

(臨床で観察できる現症)

- 1.肘関節の伸展制限が出現しやすい
- 2.肘関節の回外の制限
- 3.X・P では上腕骨・橈骨・尺骨がバラバラになっているように見え、骨破壊の経過が分かりづらい

資料 12

R Aの病期別治療計画 ー股関節ー

病 期		初 期	早 期	進 行 期	晩 期
病 像	非可逆性変化	stage 1	stage 2	stage 3	stage 4
	活 動 性	(+)	(+) ~ (++)	(++)	(±) ~ (-)
	全 身 状 態	(-) ~ (±)	(+)	(+) ~ (++)	(+) ~ (++)
目 的		①運動時痛の軽減 ②筋の過緊張の除去 ③筋力と関節可動域の保持改善			
治 療 法		①中殿筋、大殿筋の圧痛部、筋過緊張へ置鍼 ②自動運動 ③他動運動 ④抵抗運動 (徒手)			

R Aの病期別治療計画 ー足部・足関節ー

病 期		初 期	早 期	進 行 期	晩 期
病 像	非可逆性変化	stage 1	stage 2	stage 3	stage 4
	活 動 性	(+)	(+) ~ (++)	(++)	(±) ~ (-)
	全 身 状 態	(-) ~ (±)	(+)	(+) ~ (++)	(+) ~ (++)
目 的		①足関節周囲の荷重痛の除去 ②足関節背屈制限の改善 ③前足部・足趾機能の維持向上と足趾変形防止 ④足趾屈筋群の筋力強化			
治 療 法		① 下腿三頭筋、アキレス腱部の筋緊張改善、柔軟性の確保のため、その部の圧痛・硬結に置鍼。その後、距跗関節の引き離し他動運動法 ②MP 関節引き離し他動運動法 ③足趾伸筋群の圧痛・硬結部に置鍼 ④足趾屈曲抵抗運動			

RA 病期別治療計画 —膝関節—

病期	初期	早期	進行期	晩期
病 非可逆性変化 像 活動性 全身状態	stage 1 (+) (-)~(±)	stage 2 (+)~(++) (+)	stage 3 (++) (+)~(++)	stage 4 (±)~(-) (+)~(++)
膝の状態	① 患者が炎症性疼痛を緩和軽減しようとして、無意識のうちに屈曲位をとる、 いわゆる無痛肢位 ② 疼痛性および炎症性刺激による屈曲群の反射性過緊張による屈曲位 ③ 関節内癒着、関節包、関節周囲組織、筋の拘縮による拘縮性屈曲位 ④ 関節軟骨、骨の破壊、変形による伸展障害 ⑤ 膝屈曲拘縮と脛骨後方亜脱臼 ⑥ 大腿四頭筋の萎縮および筋力低下 を伴う屈曲拘縮			
治療目的	① 伸展制限があるので運動時痛の除去 ② 筋の過緊張の除去 ③筋力と関節可動域の保持改善			
治療法	① 膝屈筋群（大殿筋、ハムストリングス、下腿三頭筋）の緊張部に置鍼 ② 大腿四頭筋の緊張部に置鍼 ③ 関節の圧痛部に浅く置鍼 ④ 自動運動と膝伸筋群の筋力維持訓練			

ACR コアセット (アメリカ・リウマチ学会の提唱した評価法)¹⁾

1. 圧痛関節数：全身 68 関節のうち圧痛が認められた数
2. 腫脹関節数：全身 66 関節 (68 関節のうち、両股関節を除く) のうち腫脹が認められた数
3. 患者自身による痛みの評価：視覚的アナログスケール法 (VAS) や Likert 法を使用する
4. 患者自身による疾患活動性の総合評価：視覚的アナログスケール法 (VAS) や Likert 法を使用する
5. 医師による疾患活動性の総合評価：視覚的アナログスケール法 (VAS) や Likert 法を使用する
6. 患者自身による運動機能の評価：AIMS、HAQ、QWB、MHIQ、MACTAR などの QOL 評価法のうち、いずれかを選び評価する
7. 血沈値または CRP
8. X 線評価または他の画像診断

1, 2 が 20%以上改善、および 3～7 のうち 3 個以上が 20%以上改善したときに「改善」と定義する

質問項目：この1ヶ月を振り返って、該当するものに○をつけて下さい。

S1 移動能

Q1：自分一人でバスや電車に乗る事ができた。

Q1：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q2：一日の内のある時間内だったら、一人で外出できた。

Q2：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q3：一人で近所のトイレで用足しができた。

Q3：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q4：家の外に出る時には、誰かに手伝ってもらわないと出られなかった。

Q4：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q5：一日中、ベットか椅子から離れられなかった。

Q5：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

S2 歩行能

Q6：走ったり、重い物を持ち上げたり、スポーツ等の激しい運動をするのが困難だった。

Q6：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q7：400～500m歩いたり、2～3階の階段を昇ったりするのが困難だった。

Q7：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q8：背中を曲げたり、屈みこんだりするのが困難だった。

Q8：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q9：40～50m歩いたり、階段を1階昇るのが困難だった。

Q9：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q10：誰かに支えてもらうか、杖、松葉杖、歩行器等を使わないと歩けなかった。

Q10：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

S3 手指機能

Q11：ペンや鉛筆を使って楽に書くことができた。

Q11：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q12：シャツやブラウスのボタンを楽にかけたり外したりできた。

Q12：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q13：錠の鍵を楽に廻す事ができた。

Q13：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q14：楽にひもを結んだり、結び目を作る事ができた。

Q14：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q15：ジャムや他の食品の入った新しいビンの蓋を楽に開けることができた。

Q15：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

S4 上肢機能

Q16：ナプキンで楽に口を拭く事ができた。

Q16：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q17：頭から被って着るセーターを楽に着る事ができた。

Q17：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q18：髪をとかししたり、ブラシをかける事が楽にできた。

Q18：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q19：手で背中中の辺りを、楽に掻く事ができた。

Q19：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q20：頭より高い棚にある物を、楽に取る事ができた。

Q20：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

S5 身の回り

Q21：入浴やシャワーをするのに手助けが必要だった。

Q21：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q22：服や着物を着るのに手助けが必要だった。

Q22：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q23：トイレで用を足すのに手助けが必要だった。

Q23：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q24：ベットに入ったり出たりするのに手助けが必要だった。

Q24：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

S6 家事

Q25：もしスーパーマーケットに行けたとすれば、一人で買い物できた。

Q25：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q26：もし台所設備があるとすれば、一人で家事ができた。

Q26：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q27：もし家事道具が一式あるとすれば、一人で家事ができた。

Q27：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q28：もし洗濯設備があるとすれば、自分の洗濯物は一人で洗濯できた。

Q28：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

S7 社交

Q29：友人や親戚の人達と時間を共にした。

Q29：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q30：友人や親戚の人達を自宅へ招いた。

Q30：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q31：友人や親戚の人達の家庭を訪問した。

Q31：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q32：親しい友人や親戚の人達と電話で話しをした。

Q32：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q33：クラブや同窓会・寄り合いの会合に出席した。

Q33：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

S8 支援

Q34：あなたが助けを必要とする時、力になってくれる家族や友人が回りにいてくれると感じていた。

Q34：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q35：あなたの家族や友人は、あなたの個人的な依頼に良く応えてくれると感じていた。

Q35：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q36：あなたの家族や友人は、あなたが困った時、進んで手を貸してくれると感じていた。

Q36：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q37：あなたの家族や友人は、あなたの病気を良く理解してくれると感じていた。

Q37：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

S9 痛み

Q38：あなたが日頃感じているリウマチの痛みはどの程度ですか。

Q38：激烈・中くらい・軽い・非常に軽い・全くない

Q39：リウマチによる激痛は、何日位ありましたか。

Q39：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q40：同時に2関節またはそれ以上の関節の痛みは何日位ありましたか。

Q40：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q41：起床後朝のこわばりが1時間以上続いた日は何日位ありましたか。

Q41：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q42：眠れないほど痛かった日は何日位ありましたか。

Q42：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

S10 仕事

Q43：あなたの主な仕事は？

Q43：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q44：仕事（勤務・仕事・学校）を休まなければならなかった日は。

Q44：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q45：仕事（勤務・家事・学校）を早退しなければならなかったは。

Q45：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q46：仕事をしていて、仕事（勤務・家事・学校）が自分で思う程完全・正確に出来なかった日は。

Q46：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

Q47：仕事をしていて、仕事（勤務・家事・学校）がいつもの様できず、やり方を変えなければならなかった日は。

Q47：毎日・ほとんど毎日・何日か・たまに・1日もない

S11 精神緊張

Q48：何回くらい、気が張りつめた精神的な緊張状態に陥りましたか。

Q48：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q49：何回くらい、神経質になったり神経過敏になって困った事がありましたか。

Q49：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q50：何回くらい、楽にリラックスする事が出来まし

Q50：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q51：何回くらい、精神的緊張から開放されて、のびのびとした精神状態になりましたか。

Q51：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q52：何回くらい、静かで落ち着いた平和な気分になりましたか。

Q52：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

S12 気分

Q53：何回くらい、物事を楽しくやれましたか。

Q53：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q54：何回くらい、沈滞した憂鬱な気分になりましたか。

Q54：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q55：何一つ思うようにうまくいかないと感じる事が何回ありましたか。

Q55：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q56：あなたが死んでくれた方がましだと人から思われていると感ずる事が何回位ありましたか。

Q56：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

Q57：何一つ楽しい事がないと気持ちが沈み、ふさぎ込む事が何回位 ありましたか。

Q57：いつも・たびたび・時々・殆どない・ない

S13 健康満足度

Q58：あなたは S1～S12 の各項目における、あなた自身の健康状態にどの程度満足していますか？

Q58：非常に満足している・ある程度満足している・満足でも不満足でもない・少々不満足・全く不満足

| S14 疾患関連度

Q59：あなたは S1～S12 の各項目における、あなた自身の健康状態にどこまでがリウマチが原因になっているとのお考えですか？

Q59：全部他のことが原因だ・殆ど他のことが原因だ・病気と他の原因が半々・大部分は病気が原因だ・全部病気が原因だ

S15 改善優先度

Q60：あなたは S1～S12 の各項目における、今あなたが最も良くなって欲しいと希望する項目を3つ挙げてください。

Q60：S1～S12の項目から3項目ほど○をつけてください。

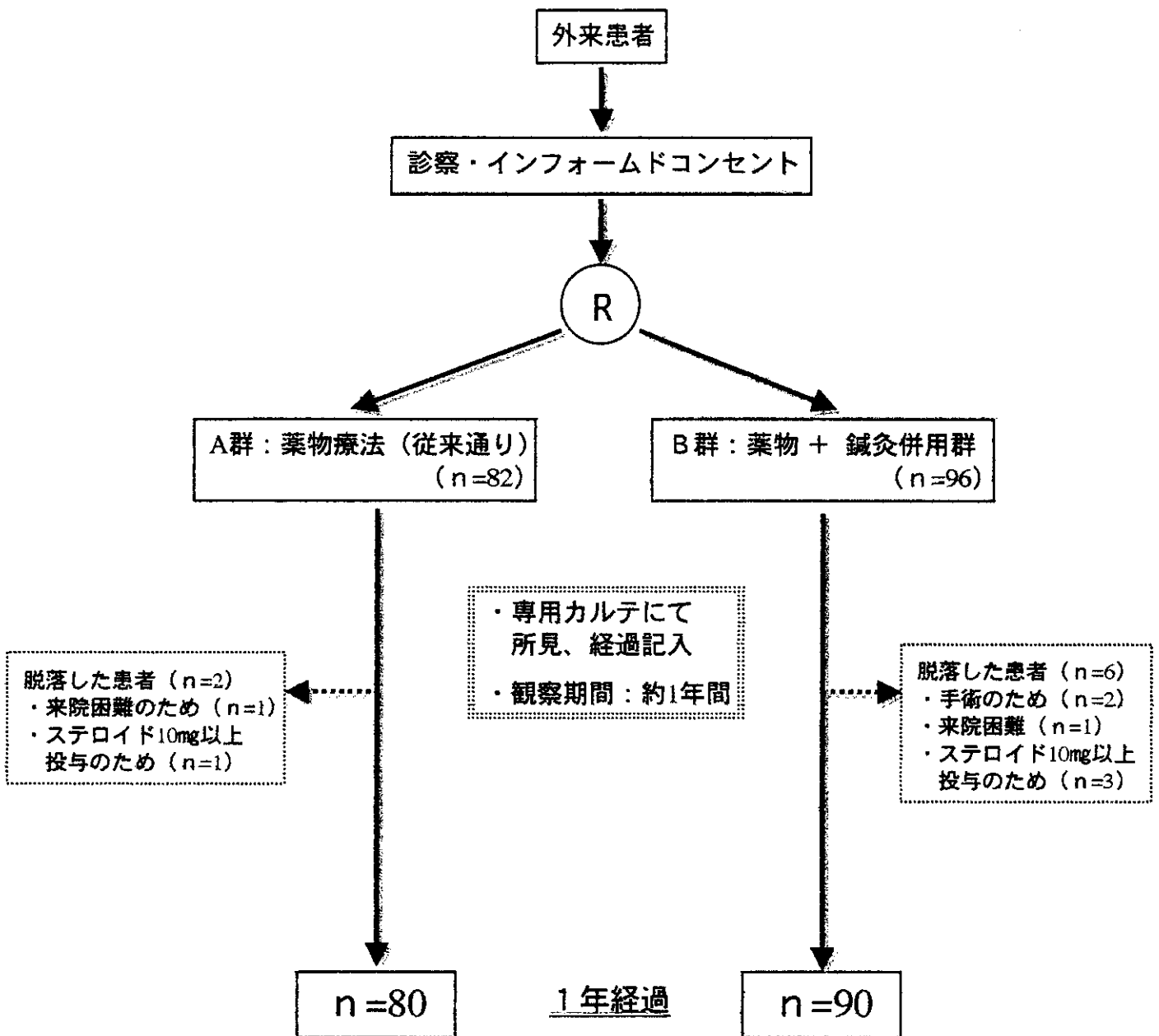
S16 自覚健康度

Q61：全体的にみて、今あなたの健康状態はどのような状態にあるのでしょうか？

Q61：非常に良い・良い・まあまあ・悪い・非常に悪い

資料16

フローダイアグラム



資料 17 両群の背景因子

比較項目	薬物療法群 (MEAN±SD)	鍼灸併用群 (MEAN±SD)	検定方法	結果 (P 値)
年齢 (歳)	58.5±11.1	57.9±11.1	対応のない t 検定	0.7630
性別	女性 80 / 男性 2	女性 90 / 男性 6	Fisher の直接法	0.2903
圧痛関節	17.3±7.35	18.6±10.8	Mann-Whitney の U 検定	0.5477
腫脹関節	9.32±4.56	10.6±7.49	Mann-Whitney の U 検定	0.8498
赤沈値	34.5±21.5	33.1±16.4	対応のない t 検定	0.6325
stage	2.45±0.85	2.46±0.89	Mann-Whitney の U 検定	0.9378
class	2.44±0.25	2.33±0.57	Mann-Whitney の U 検定	0.2166
患者疼痛 VAS	6.31±1.58	6.05±2.28	Mann-Whitney の U 検定	0.4935
患者全体 VAS	5.65±1.41	5.83±1.98	Mann-Whitney の U 検定	0.1892
医師 VAS	5.76±1.68	6.10±1.87	Mann-Whitney の U 検定	0.2496
罹病期間 (年)	17.8±9.85	17.2±9.83	対応のない t 検定	0.6855
ADL	34.8±6.19	36.6±8.31	Mann-Whitney の U 検定	0.1475 *
AIMS-2	145.5±27.2	143.4±29.2	Mann-Whitney の U 検定	0.4698

* : P<0.15

背景因子表記に関する注釈

- ・ 一般的にノンパラメトリックと考えられている数値は Mann-Whitney の U 検定を適用した。
- ・ 一般的にパラメトリックと考えられている数値も薬物療法群と鍼灸併用群の分散を F 検定 (片側) にて検討し、分散に有意差のあるもの (p<0.05) はノンパラメトリックと考え、Mann-Whitney の U 検定を適用し、分散に有意差のないもの (p>0.05) はパラメトリックと考え、対応のない t 検定を適用した。
- ・ 表中ではノンパラメトリックデータの代表値も便宜的に (平均値±標準偏差) を記載した。

反復測定分散分析

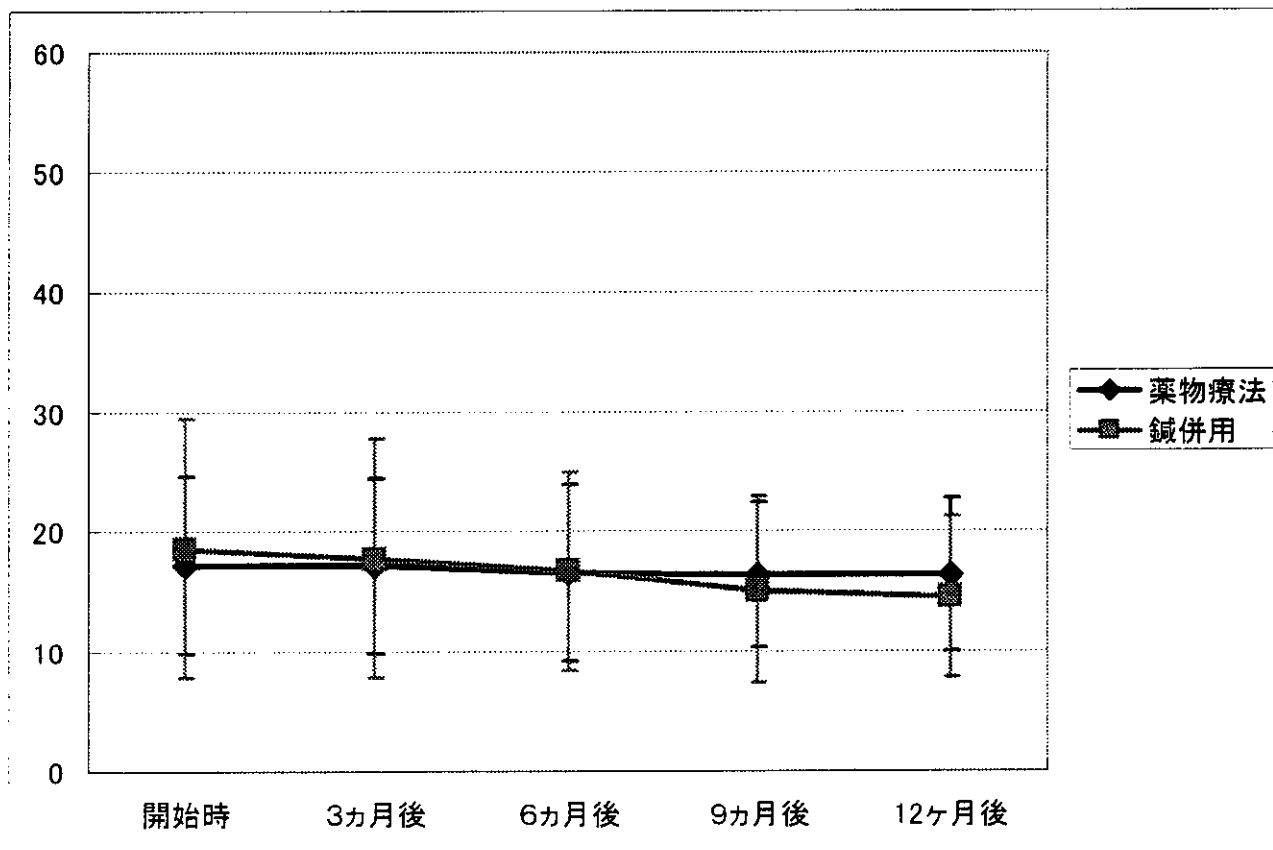
分散分析表 : 経過

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値	ラムダ	検出力
群	1	114.747	114.747	.650	.4211	.650	.121
対象(群)	168	29640.454	176.431				
カテゴリー-経過	4	738.890	184.722	5.996	<.0001	23.984	.991
カテゴリー-経過 * 群	4	188.688	47.172	1.531	.1914	6.125	.467
カテゴリー-経過 * 対象(群)	672	20703.129	30.808				

基本統計量 : 経過

効果 : カテゴリー-経過 * 群

	例数	平均値	標準偏差	標準誤差
薬物療法, 開始時	80	17.450	7.260	.812
薬物療法, 三ヵ月後	80	17.350	7.224	.808
薬物療法, 六ヵ月後	80	16.700	7.254	.811
薬物療法, 九ヶ月後	80	16.350	5.973	.668
薬物療法, 十二ヵ月後	80	16.375	6.333	.708
鍼併用, 開始時	90	18.089	10.606	1.118
鍼併用, 三ヵ月後	90	17.244	9.735	1.026
鍼併用, 六ヵ月後	90	16.033	7.588	.800
鍼併用, 九ヶ月後	90	14.644	6.996	.737
鍼併用, 十二ヵ月後	90	14.533	6.693	.705



資料 19 腫脹関節数

反復測定分散分析

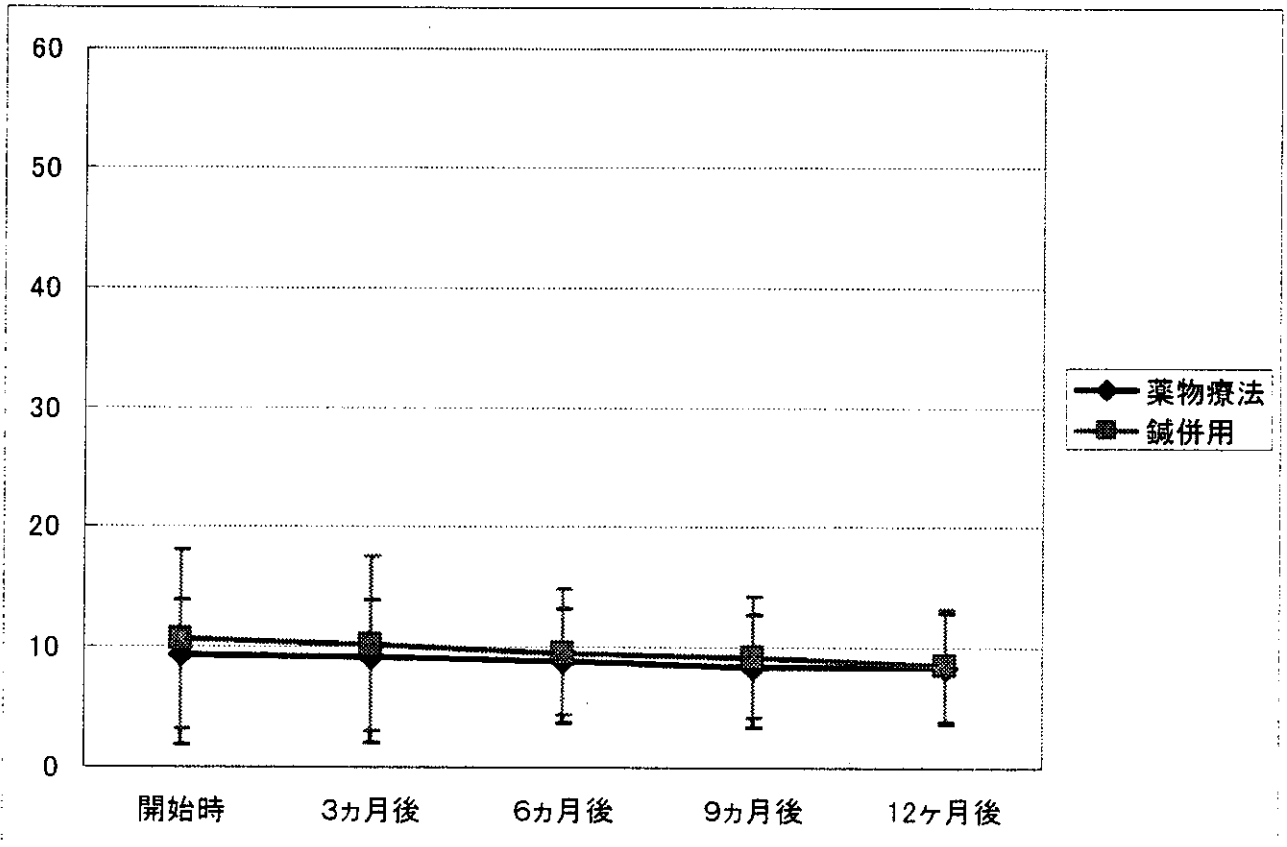
分散分析表 : 経過

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値	ラムダ	検出力
群	1	67.534	67.534	.912	.3410	.912	.150
対象(群)	168	12444.955	74.077				
カテゴリー 経過	4	266.259	66.565	3.836	.0043	15.345	.905
カテゴリー 経過 * 群	4	26.965	6.741	.389	.8169	1.554	.139
カテゴリー 経過 * 対象(群)	672	11660.557	17.352				

基本統計量 : 経過

効果 : カテゴリー 経過 * 群

	例数	平均値	標準偏差	標準誤差
薬物療法, 開始時	80	9.475	4.481	.501
薬物療法, 三ヵ月後	80	9.387	4.499	.503
薬物療法, 六ヵ月後	80	9.088	4.213	.471
薬物療法, 九ヶ月後	80	8.400	4.250	.475
薬物療法, 十二ヵ月後	80	8.438	4.397	.492
鍼併用, 開始時	90	10.456	7.597	.801
鍼併用, 三ヵ月後	90	10.100	7.355	.775
鍼併用, 六ヵ月後	90	9.344	5.204	.549
鍼併用, 九ヶ月後	90	9.233	5.033	.530
鍼併用, 十二ヵ月後	90	8.478	4.679	.493



反復測定分散分析

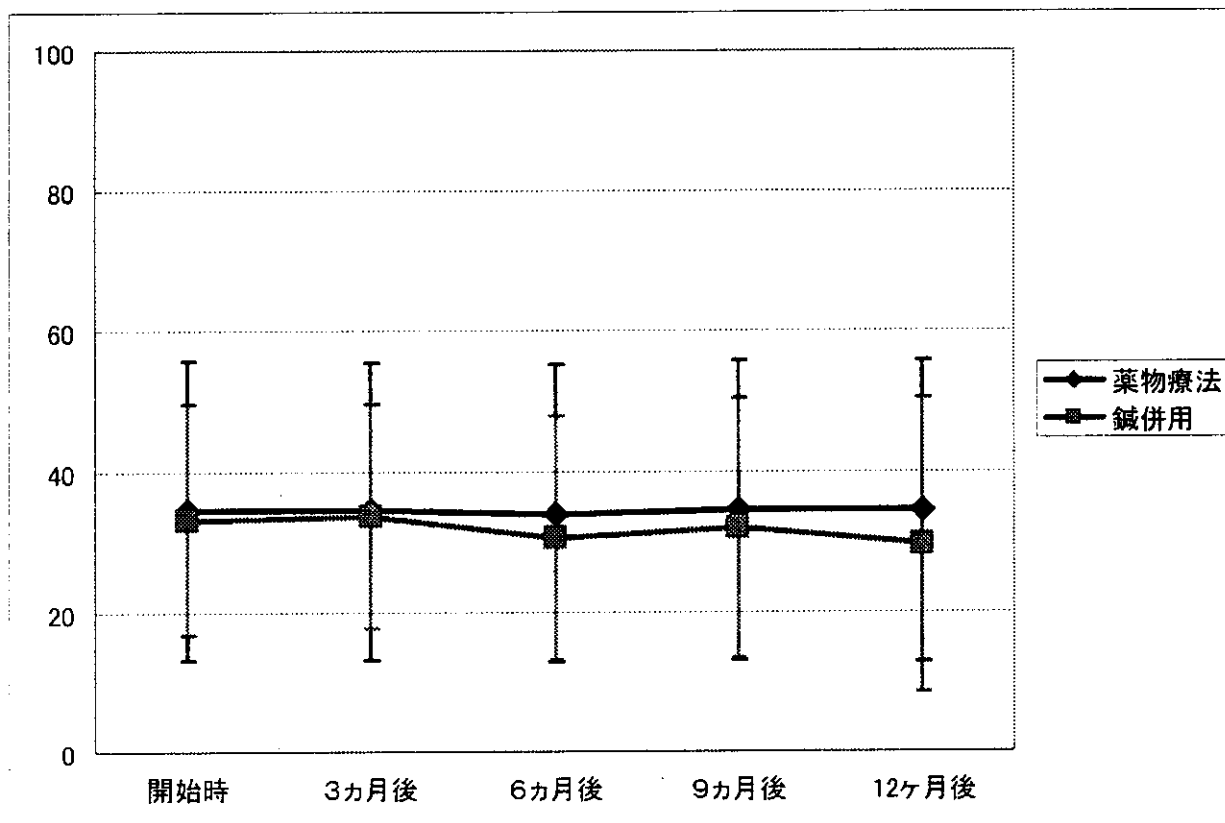
分散分析表 : 経過

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値	ラムダ	検出力
群	1	1408.984	1408.984	1.149	.2852	1.149	.177
対象(群)	168	205937.041	1225.816				
カテゴリー 経過	4	467.474	116.869	.657	.6219	2.629	.211
カテゴリー 経過 * 群	4	430.702	107.676	.606	.6587	2.422	.196
カテゴリー 経過 * 対象(群)	672	119488.020	177.810				

基本統計量 : 経過

効果 : カテゴリー 経過 * 群

	例数	平均値	標準偏差	標準誤差
薬物療法, 開始時	80	34.400	21.722	2.429
薬物療法, 三ヶ月後	80	34.325	21.445	2.398
薬物療法, 六ヶ月後	80	33.975	21.402	2.393
薬物療法, 九ヶ月後	80	34.425	21.383	2.391
薬物療法, 十二ヶ月後	80	34.450	21.260	2.377
鍼併用, 開始時	90	32.944	16.431	1.732
鍼併用, 三ヶ月後	90	33.478	16.046	1.691
鍼併用, 六ヶ月後	90	30.678	17.266	1.820
鍼併用, 九ヶ月後	90	32.022	18.809	1.983
鍼併用, 十二ヶ月後	90	29.556	20.891	2.202



反復測定分散分析

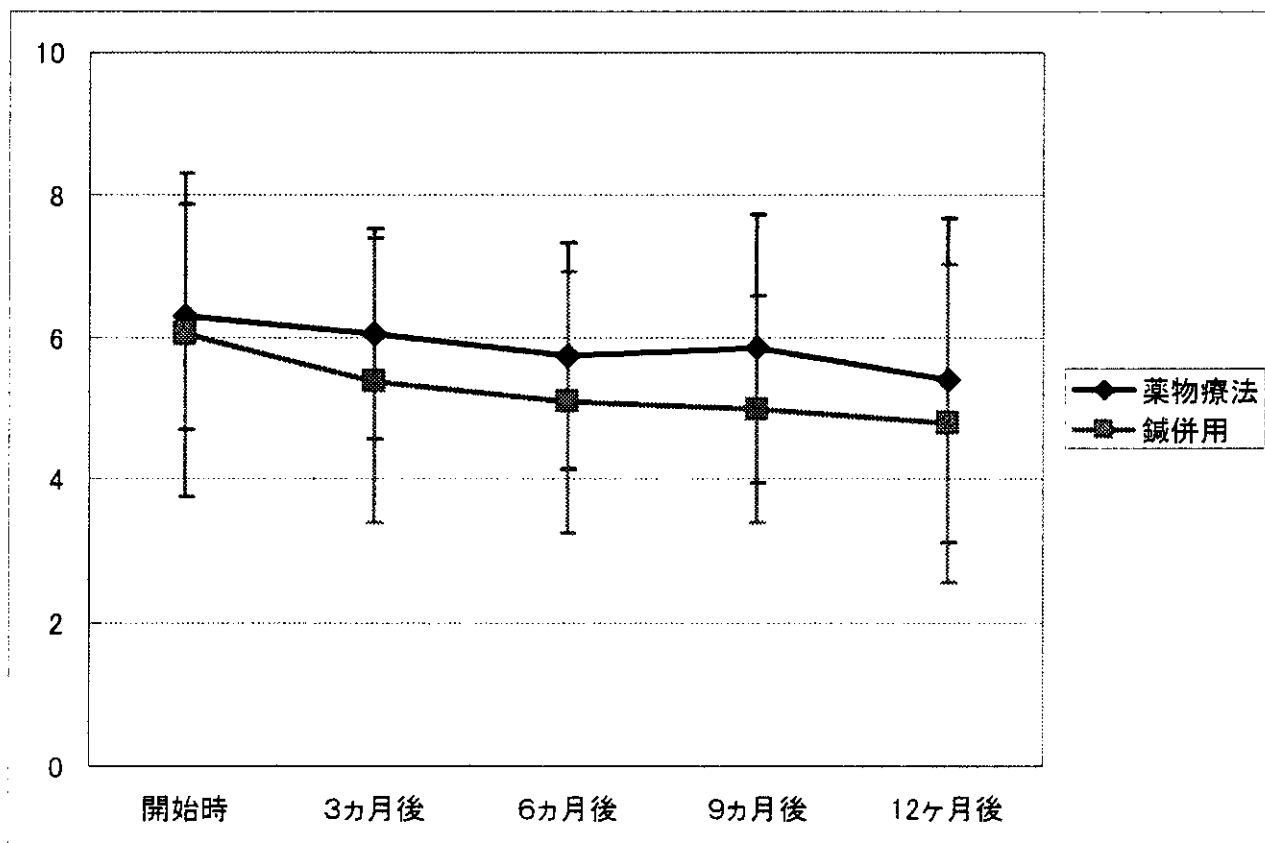
分散分析表 : 経過

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値	ラムダ	検出力
群	1	81.082	81.082	8.202	.0047	8.202	.827
対象(群)	168	1660.851	9.886				
カテゴリー-経過	4	112.056	28.014	13.481	<.0001	53.922	1.000
カテゴリー-経過 * 群	4	8.025	2.006	.965	.4258	3.862	.300
カテゴリー-経過 * 対象(群)	672	1396.487	2.078				

基本統計量 : 経過

効果 : カテゴリー-経過 * 群

	例数	平均値	標準偏差	標準誤差
薬物療法, 開始時	80	6.307	1.573	.176
薬物療法, 三ヵ月後	80	6.074	1.471	.164
薬物療法, 六ヵ月後	80	5.761	1.598	.179
薬物療法, 九ヵ月後	80	5.842	1.886	.211
薬物療法, 十二ヵ月後	80	5.400	2.269	.254
鍼併用, 開始時	90	6.037	2.295	.242
鍼併用, 三ヵ月後	90	5.399	2.023	.213
鍼併用, 六ヵ月後	90	5.088	1.841	.194
鍼併用, 九ヵ月後	90	4.974	1.599	.169
鍼併用, 十二ヵ月後	90	4.793	2.222	.234



反復測定分散分析

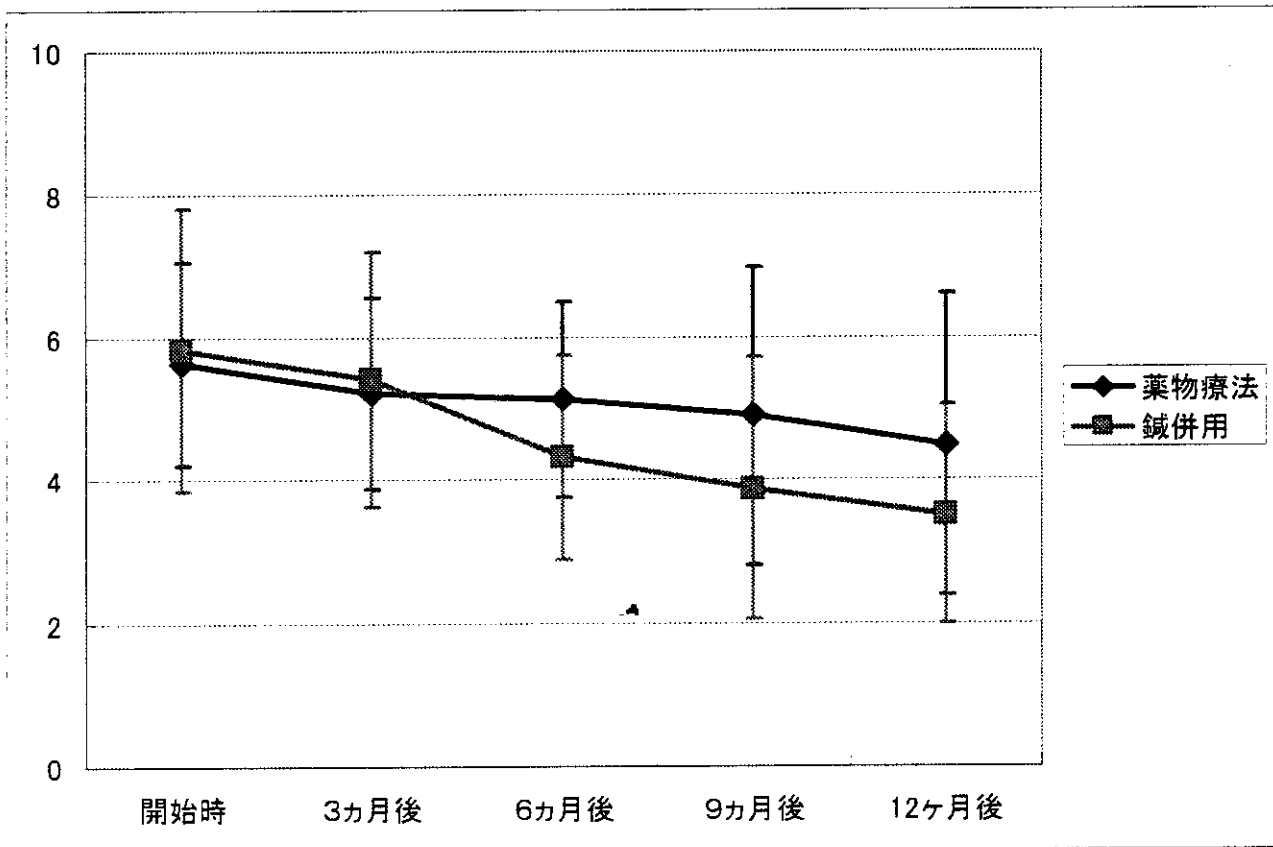
分散分析表：経過

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値	ラムダ	検出力
群	1	63.047	63.047	9.110	.0029	9.110	.869
対象(群)	168	1162.629	6.920				
カテゴリー 経過	4	332.459	83.115	43.687	<.0001	174.746	1.000
カテゴリー 経過 * 群	4	57.510	14.377	7.557	<.0001	30.228	.999
カテゴリー 経過 * 対象(群)	672	1278.496	1.903				

基本統計量：経過

効果：カテゴリー 経過 * 群

	例数	平均値	標準偏差	標準誤差
薬物療法, 開始時	80	5.700	1.371	.153
薬物療法, 三ヵ月後	80	5.259	1.305	.146
薬物療法, 六ヵ月後	80	5.184	1.347	.151
薬物療法, 九ヵ月後	80	4.895	2.073	.232
薬物療法, 十二ヵ月後	80	4.496	2.106	.235
鍼併用, 開始時	90	5.776	2.030	.214
鍼併用, 三ヵ月後	90	5.353	1.822	.192
鍼併用, 六ヵ月後	90	4.351	1.416	.149
鍼併用, 九ヵ月後	90	3.812	1.770	.187
鍼併用, 十二ヵ月後	90	3.513	1.519	.160



反復測定分散分析

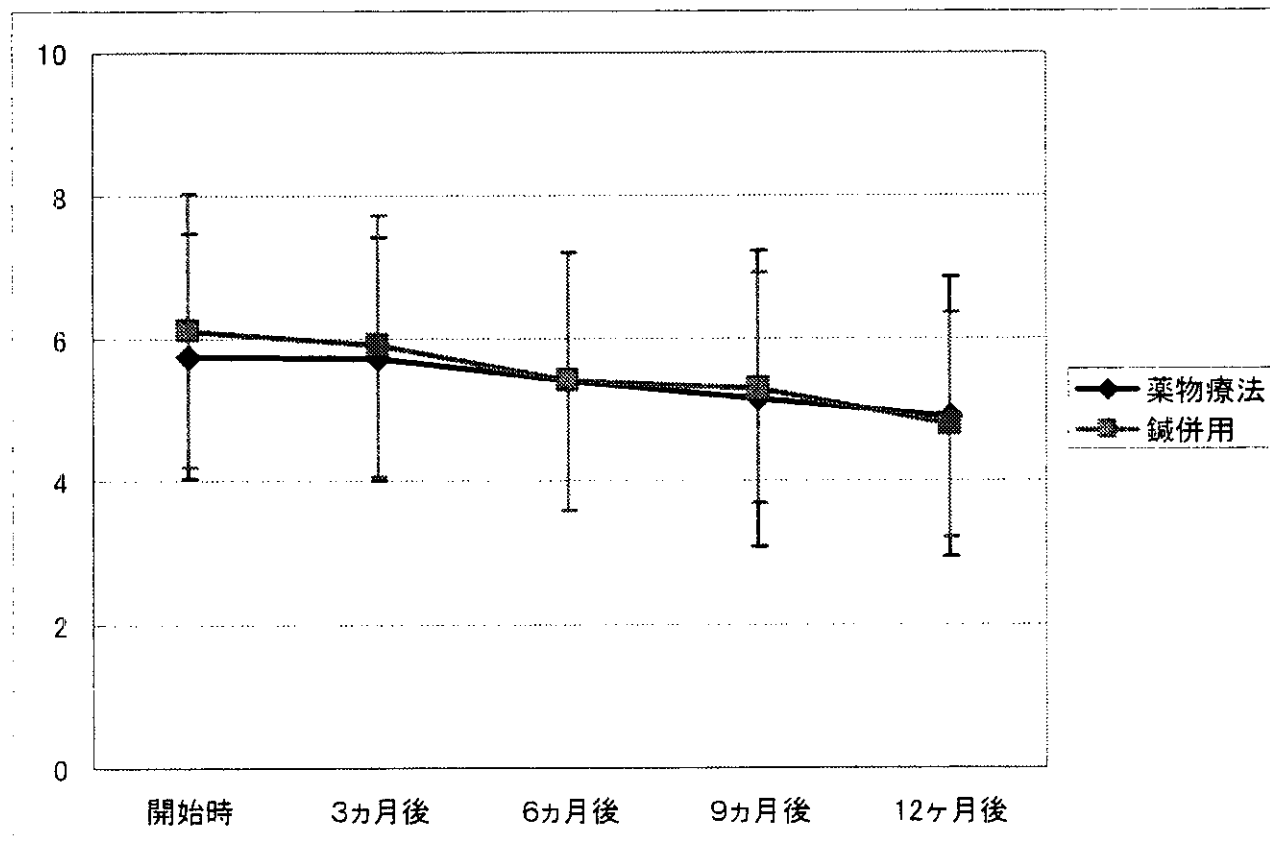
分散分析表 : 経過

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値	ラムダ	検出力
群	1	3.086	3.086	.354	.5526	.354	.089
対象 (群)	168	1463.910	8.714				
カテゴリー-経過	4	137.856	34.464	18.800	<.0001	75.200	1.000
カテゴリー-経過 * 群	4	6.043	1.511	.824	.5100	3.296	.259
カテゴリー-経過 * 対象 (群)	672	1231.910	1.833				

基本統計量 : 経過

効果 : カテゴリー-経過 * 群

	例数	平均値	標準偏差	標準誤差
薬物療法, 開始時	80	5.774	1.679	.188
薬物療法, 三ヵ月後	80	5.736	1.662	.186
薬物療法, 六ヵ月後	80	5.424	1.772	.198
薬物療法, 九ヵ月後	80	5.155	2.064	.231
薬物療法, 十二ヵ月後	80	4.909	1.945	.217
鍼併用, 開始時	90	6.163	1.911	.201
鍼併用, 三ヵ月後	90	5.909	1.858	.196
鍼併用, 六ヵ月後	90	5.431	1.817	.192
鍼併用, 九ヵ月後	90	5.301	1.611	.170
鍼併用, 十二ヵ月後	90	4.797	1.553	.164



反復測定分散分析

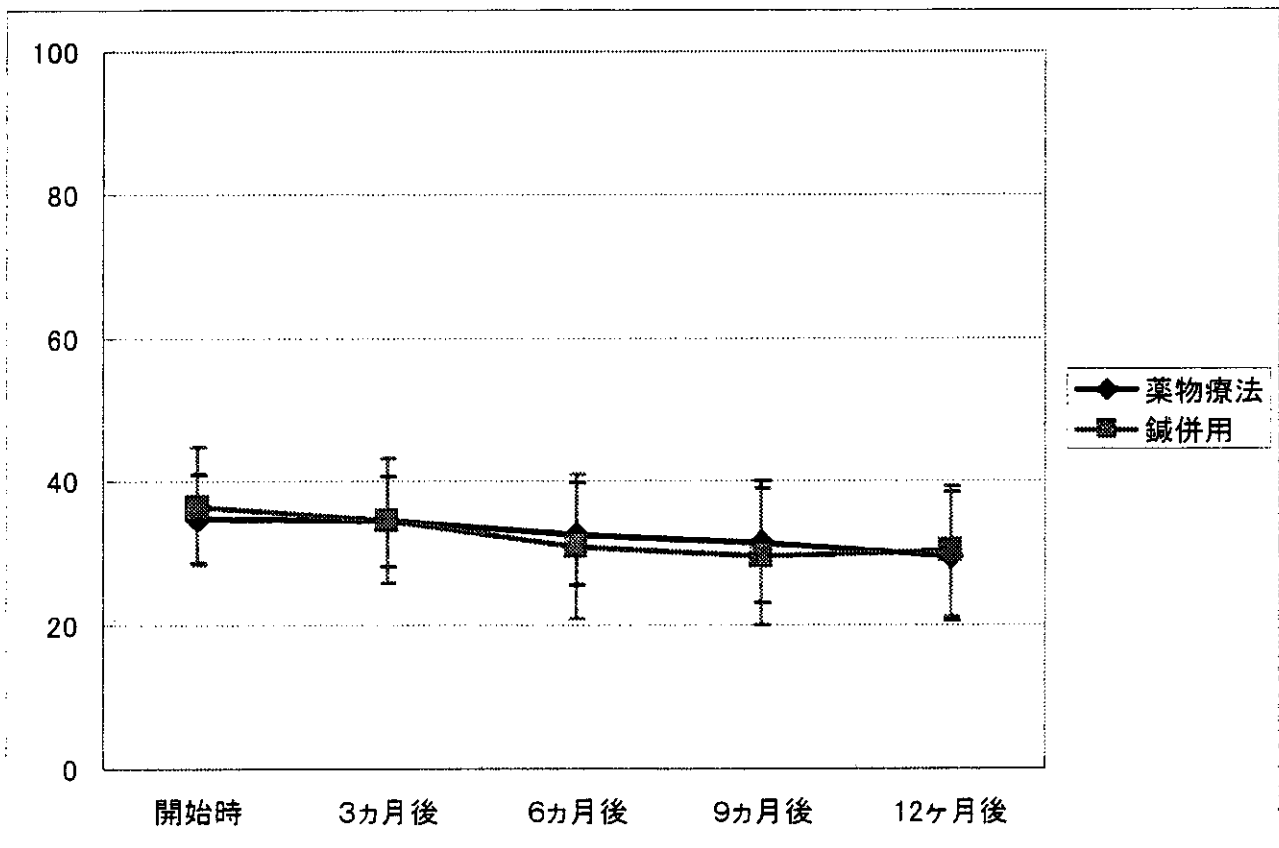
分散分析表 : 経過

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値	ラムダ	検出力
群	1	11.121	11.121	.068	.7948	.068	.058
対象(群)	168	27535.077	163.899				
カテゴリー 経過	4	4145.825	1036.456	21.644	<.0001	86.576	1.000
カテゴリー 経過 * 群	4	424.263	106.066	2.215	.0659	8.860	.648
カテゴリー 経過 * 対象(群)	672	32179.579	47.886				

基本統計量 : 経過

効果 : カテゴリー 経過 * 群

	例数	平均値	標準偏差	標準誤差
薬物療法, 開始時	80	34.763	6.214	.695
薬物療法, 三ヵ月後	80	34.388	6.243	.698
薬物療法, 六ヵ月後	80	32.688	7.166	.801
薬物療法, 九ヵ月後	80	31.575	8.430	.942
薬物療法, 十二ヵ月後	80	29.600	8.863	.991
鍼併用, 開始時	90	36.478	8.520	.898
鍼併用, 三ヵ月後	90	34.544	8.835	.931
鍼併用, 六ヵ月後	90	31.111	9.967	1.051
鍼併用, 九ヵ月後	90	29.478	9.635	1.016
鍼併用, 十二ヵ月後	90	30.256	8.994	.948

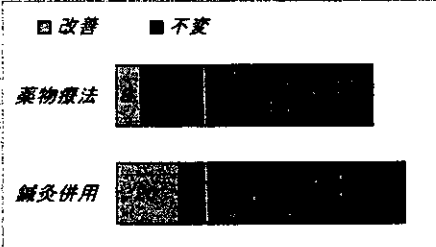


2x2 Chi square test and Fisher's test

observ	改善	不変	sum
薬物療法	8	72	80
鍼灸併用	20	70	90
sum	28	142	170
expect	改善	不変	sum
薬物療法	13.17647	66.82353	80
鍼灸併用	14.82353	75.17647	90
sum	28	142	170

Chi	改善	不変
薬物療法	2.033613	0.400994
鍼灸併用	1.807656	0.356439

YatesChi	freq1	freq2
group1	1.65973	0.327271
group2	1.475315	0.290907



Result of 2x2 Chi square test and Fisher's test
 there is no <10 number in data P=0.0319961510664331
 Chi=4.5987 3.841455 P<0.05 significant difference*
 Chi=4.5987 6.634891 P<0.01 no significant difference

there is <10 number in data P=0.0527058199921236
 Yates Chi=3.7532 3.841455 P<0.05 no significant difference
 Yates Chi=3.7532 6.634891 P<0.01 no significant difference

there is <4 number in data #NUM!
 #NUM! #NUM!
 #NUM! #NUM!

g1f1	g1f2	g2f1	g2f2	sum	fa=
80	0	-52	142	170	#NUM!
79	1	-51	141	170	#NUM!
78	2	-50	140	170	#NUM!
77	3	-49	139	170	#NUM!
76	4	-48	138	170	#NUM!
75	5	-47	137	170	#NUM!
74	6	-46	136	170	#NUM!
73	7	-45	135	170	#NUM!
72	8	-44	134	170	#NUM!
71	9	-43	133	170	#NUM!
70	10	-42	132	170	#NUM!
69	11	-41	131	170	#NUM!
68	12	-40	130	170	#NUM!
67	13	-39	129	170	#NUM!
66	14	-38	128	170	#NUM!
65	15	-37	127	170	#NUM!
64	16	-36	126	170	#NUM!
63	17	-35	125	170	#NUM!
62	18	-34	124	170	#NUM!
61	19	-33	123	170	#NUM!
60	20	-32	122	170	#NUM!
59	21	-31	121	170	#NUM!
58	22	-30	120	170	#NUM!
57	23	-29	119	170	#NUM!
56	24	-28	118	170	#NUM!
55	25	-27	117	170	#NUM!
54	26	-26	116	170	#NUM!
53	27	-25	115	170	#NUM!
52	28	-24	114	170	#NUM!
51	29	-23	113	170	#NUM!

反復測定分散分析

分散分析表 : 経過

	自由度	平方和	平均平方	F値	p値	ラムダ	検出力
群	1	23138.761	23138.761	11.815	.0007	11.815	.946
対象(群)	168	329008.709	1958.385				
カテゴリー-経過	4	32584.823	8146.206	18.315	<.0001	73.258	1.000
カテゴリー-経過 * 群	4	8417.002	2104.250	4.731	.0009	18.923	.962
カテゴリー-経過 * 対象(群)	672	298902.229	444.795				

基本統計量 : 経過

効果 : カテゴリー-経過 * 群

	例数	平均値	標準偏差	標準誤差
薬物療法, 開始時	80	145.162	27.456	3.070
薬物療法, 三ヵ月後	80	141.387	26.949	3.013
薬物療法, 六ヵ月後	80	139.938	26.884	3.006
薬物療法, 九ヶ月後	80	139.262	26.728	2.988
薬物療法, 十二ヵ月後	80	135.338	26.306	2.941
鍼併用, 開始時	90	143.611	29.846	3.146
鍼併用, 三ヵ月後	90	135.533	27.157	2.863
鍼併用, 六ヵ月後	90	129.956	26.813	2.826
鍼併用, 九ヶ月後	90	122.333	27.848	2.935
鍼併用, 十二ヵ月後	90	117.389	26.995	2.846

